

平成 30 年秋期 金沢東部地区推進連絡会

1 日時

平成 30 年 11 月 24 日（土） 16 : 00～17 : 00

2 場所

谷津坂会館

3 参加者 32 名

（地域側）自治会等地域団体関係 18 名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 10 名

支援チーム 4 名

4 議事

（1）開会の挨拶

青木 連合町内会長よりご挨拶。

金沢東部地区は 8 つの町会にて構成され、約 11,000 人の住民が暮らしている。

その地域住民が主体となり、5 つの柱(部会)で構成された地域福祉保健計画を推進しているが、今回はそれぞれの進捗状況及び課題を報告していただく。そのうえでご意見等をいただければと思う。

（2）区の挨拶及び概要説明

國原区長よりご挨拶。

その後、資料に基づき説明。

～「住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らし続けるために」～

（3）自己紹介

区・支援チーム・地域、各自自己紹介。

（4）金沢東部地区 30 年度の活動内容について

宮野 地区社協会長よりご挨拶及び各分科会の概要を紹介。

《各分科会代表より》

○第一分科会

長谷川 連合町内会事務局長より説明。

第一分科会では、防災の観点から「災害発生時の要援護者支援体制の確立」を目指し、単会ごとにそれぞれ取り組んでいる。

また、横の繋がりを作り、各町会の良い事例を参考にできるように本年度は取り組んでいる。

○第二分科会

太田 西柴福寿会会長より説明。

第二分科会では、高齢男性の社会参加、健康寿命の延伸、孤立の防止を目的に『メンズエクササイズ』を立ち上げ、実施している。

男性専用体操教室であり、現在 15 名の会員と 5 名のボランティアが活動をしている。

本年度より、年に 2 回活動に談話会も取り入れている。体操だけを実施するのではなく、お茶を飲みながら会話をする機会を設けることで、会がより和やかになり、仲間意識も増したため、効果を実感している。

また、年に 1 回昼食会も実施した。

年に 2～3 回無料体験も実施し、会員の拡充に努めている。

今後は、自主活動化を目指していきたい。

○第三分科会

瀬川 民生委員・児童委員協議会副会長より説明。

第三分科会では、障害がある人が暮らしやすい地域を目指し取り組みを継続及び拡充をしていく。本年度より推進メンバーが民生委員に統一されている。民生委員としても日々の活動の中で、障害の部分には入りづらさがあり、地域状況の把握の難しさを感じている。

まずは推進をしていく側が障害を理解することを目的に内部研修を実施することが決まった。そのうえでできる事を考えていけたらと思う。

○第四分科会

大泊 地区社協副会長より説明。

第四分科会では、子ども達が健やかで安心して成長できる地域を目指し、4つの柱(資料参照)に沿って取り組んでいる。

親子の広場については、自主運営化を視野にいれ、現在検討をしている。

子育てサークルへの支援については、役員の担い手が少ないといった課題があったが、民生委員・主任児童委員との連携により、改善されつつある。

小・中学生の健全育成支援については、「スペース谷津坂」の定期的な報告

を実施し、ボランティア募集も兼ねた PR を強化していきたい。
世代間交流の促進については、第五分科会との連携を強化し、「スペース谷津坂」をさらに世代間交流のできる場へと発展していく。

○第五分科会

宮野 地区社協会長より説明。

第五分科会では、地域の課題を地域で解決できるように取り組んでいる。
地区社協の賛助会員については、目標の 900 名を突破。賛助会員に対して定期的に情報を発信していく。

共通の課題では、ボランティアの高齢化と不足が挙げられる。

送迎サービスを 12 月をもって終了とすることとした。

今後は、人材の発掘と新しいニーズを把握するためにアンケート調査の実施を検討している。

また、委嘱委員や地域活動団体との情報交換を強化し、それぞれの強みを活かし、課題の解決を目指していく。

第 5 分科会では、サブリーダーの配置も検討している。

《質問及びご意見》

特になし。

(5) 閉会の挨拶（中村 地区連合町内会副会長）

今回は地域でどのような福祉活動が行われているかを知る良い機会になったと感じている。しかし、一般の方々がこのような話を聞くチャンスが少ない。回覧板等文書で発信をしても読んでくれる方々は限られている。

今後、違う形で地域の福祉活動をアピールしていく方法を地域としても検討・工夫を行っていく必要がある。